本町が震度6弱に襲われると、人的被害は死者28人、重傷者48人 被災家屋は946棟、430世帯におよぶ

東海地震が発生すると全県下で被害は甚大に

東海地震は、駿河湾付近で近い将来起こるといわれている巨大地震。平成13年5月に発表された第3次地震被害想定によれば、予想される地震の規模はマグニチュード8、震度は、埋立地や地盤が軟弱な地域を中心に6強から7となり、地域によっては液状化の発生や津波の襲来も予想されている。また古い木造家屋が密集した地域では、建物の多くが倒壊するなど、甚大な被害が懸念されている。

第3次被害想定によると、東海地震が発生した場合、全県下で建物被害は77万3千棟（全壊・半壊・一部損壊含む）、11万人が何らかの被害（死亡・重傷・中程度のけがなど）にあうと予想されている。

東海地震の規模や被害を阪神・淡路大震災と比較すると、マグニチュードは10倍、震度7がおよぶ地域の広さは4・4倍、人的被害は2・2倍、建物など倒壊の被害は1・9倍にもなるという恐ろしい予想が出されている。

震度6弱が襲う本町ではどの程度の被害が出るか

東海地震が発生した場合、本町にはどれほどの被害が発生するのだろうか。

想定では、本町全体での震度は6弱と想定され、場所によっては6強になる可能性もあるとしている。

東海地震の予知ができなかった場合、本町では28人の死者、48人の重傷者、中程度のけが人が190人以上にのぼると算定されている。人口の約3％に被害が出るという予想だ。また建物などの物的被害は、罹災（大破棟数＋中破棟数＋一部損壊棟数）の建物数は2600棟。大きく破壊される建物は946棟と、多くの建物が全壊・半壊すると見積もられている。

全県下で被害多数の場合救援などが遅れる可能性も

本町のことだけ考えてはいられない。全県下で被害が発生している状況では、ライフラインが寸断されてもすぐに復旧できない、情報が遮断される、孤立集落への救助が遅れるなど、仮に本町の被害は少なかったとしても、救援の手はなかなか届かないかもしれない。

本町での東海地震被害想定

東海地震の予知がなされなかった場合

●人的被害

死　者	重傷者	中等傷者
28人	48人	192人

平成21年9月1日現在の人口8,696人により算出。町全体の約0.3％の人が亡くなり、約2.7％の人が負傷すると想定されています。

●物的被害

罹　災（大破棟数＋中破棟数＋一部損壊棟数）		被　災（大破棟数＋中破棟数／2）	
棟数	世帯数	棟数	世帯数
2,602棟	1,178世帯	946棟	430世帯

平成21年9月1日現在の世帯数3,036世帯により算出。町全体の約39％が罹災し、約14％が被災すると想定されています。

参考：第3次地震被害想定結果　平成13年5月　静岡県

第2章　住民の生命と古里の財産を守る本町の組織力

わが町の防災最前線

災害は、いつ起こるか誰にも分からない
予想できない大規模災害の襲来に立ち向かうには
消防や自主防など組織力が欠かせない
肝心なのは「組織があること」ではなく「組織が機能すること」
そのためには、日ごろからの訓練や準備が必要だ
消防団と自主防災会の訓練から、わが町の防災体制を見てみる